

文化ファッション大学院大学

令和7年度

ファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価
評価報告書

令和8年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構

文化ファッション大学院大学

I 評価結果

【判定】

評価の結果、日本高等教育評価機構が定める評価基準に適合していると認定する。

II 総評

各基準の評価は以下のとおりである。

各基準の評価

基準 1. 使命・目的	満たしている
基準 2. 内部質保証	満たしている
基準 3. 学生	満たしている
基準 4. 教育課程	満たしている
基準 5. 教員	満たしている

III 基準ごとの評価

基準 1. 使命・目的

【評価】

基準 1 を満たしている。

1-1. 使命・目的及び教育研究上の目的の反映	満たしている
-------------------------	--------

【理由】

専門職大学院は、使命・目的及び教育研究上の目的を明確に定め、学内外に対してホームページ等により、また、学生、教職員、役員に対してはオリエンテーション、授業、講師会、理事会等において周知を図っている。建学の精神、使命・目的及び教育研究上の目的に基づき、中期的な将来像を定め、5 か年計画として中期計画を策定し、ホームページにおいて公開している。中期計画の基本的目標の達成に向けて、運営会議・内部質保証委員会において「中期計画(2023～2027 年度)フォローアップチェックリスト」(以下「中期計画 FU チェックリスト」という。)を策定し、中期計画に掲げる目標を点検・評価している。

建学の精神、教育理念等を踏まえて三つのポリシーを定め、入学者選抜、教育課程の編成、学修成果の達成に努めている。建学の精神、使命・目的を具現化する教育研究組織として、ファッションビジネス研究科のもとにファッションクリエイション専攻とファッションマネジメント専攻の 2 専攻を設置し、日本で唯一となるファッション分野の専門職大

学院教育を行っている。

教育理念、使命・目的及び教育研究上の目的、三つのポリシーについては、教育課程連携協議会の外部委員による評価を受けるほか、学内の会議体において、見直す必要があるかについて定期的に審議している。

基準 2. 内部質保証

【評価】

基準 2 を満たしている。

2-1. 内部質保証の組織体制	満たしている
2-2. 内部質保証のための自己点検・評価	満たしている
2-3. 内部質保証の機能性	満たしている

【理由】

「文化ファッション大学院大学における内部質保証の方針」において、内部質保証の最高責任者を学長とし、教授会及び運営会議・内部質保証委員会を内部質保証の中核に位置付けている。同委員会及び自己点検・評価を集約する自己点検・評価委員会のもとに、研究科、各専攻、各委員会、教学事務室が自主・自律的に自己点検・評価を行っている。

自己点検評価書、独自の基準による「中期計画 FU チェックリスト」、三つのポリシーや学生の学修成果の達成状況を把握・評価するアセスメントプラン及び学外関係者を含む各種調査を通じて全学的に自己点検・評価を行っている。教学事務室及び法人本部総務部企画課が IR 業務を担い、各種アンケート調査を実施し、分析している。

学生の意見・要望は、授業評価アンケート、学生生活満足度調査、学生会における意見交換の場等において把握し、運営会議・内部質保証委員会、教育・研究委員会、学生生活委員会及び各専攻で具体的に改善を図っている。学外関係者の意見・要望は、教育課程連携協議会において聴取している。内部質保証のための PDCA サイクルとして、運営会議・内部質保証委員会が基軸となり、各種データから自己点検・評価を実施し、問題点を抽出し、自ら改善若しくは当該部門に改善を委ねるサイクル、更に具体的な改善のために各部門・各教員が自己点検・評価を行い、解決策を計画・実行するサイクルを確立している。

基準 3. 学生

【評価】

基準 3 を満たしている。

3-1. 学生の受入れ	満たしている
3-2. 学修支援	満たしている
3-3. キャリア支援	満たしている

3-4. 学生サービス	満たしている
3-5. 学修環境の整備	満たしている

【理由】

専門職大学院は、アドミッション・ポリシーに沿った体制で入学者を受入れ、入学定員を確保している。学修支援では、オフィスアワー制度を設け、学生の要望に応じて個別の面談を行っている。学生生活満足度調査を実施し、ニーズに応じた支援体制を整備している。キャリアガイダンスの開催、履歴書の確認、企業説明会案内、求人案内などの就職支援活動を実施するとともに、就職率の推移を見ながら、外部組織の「OB・OG会」と連携し、卒業後の進路についても支援をしている。学生サービスは、健康管理センターを設置し、学生の身体的健康管理を行い、心身の健康については「学生生活支援室」が対応している。さまざまな文化的背景や個性をもつ学生に対しては、「学生相談室(なんでも相談室)」「学生交流支援室(だれでも談話室)」「障がい学生支援室(学習サポート塾)」が連携し、多様性・国際性に配慮した支援を行っている。中長期整備計画に基づき校舎の施設・設備を適切に管理運営し、学修環境を適切に整備している。学生の学びに必要な備品も整っている。図書館においては、十分に利用できる環境が整備され、学術情報資料や電子ジャーナルも充実している。紀要や一部の貴重書は電子化され、学内にとどまらず学外にも公開し、提供している。

〈優れた点〉

○歴史的に貴重な服飾関係の所蔵品を学外へ公開するとともに、授業や研究に有効活用していることは評価できる。

基準 4. 教育課程

【評価】

基準 4 を満たしている。

4-1. 単位認定、修了認定	満たしている
4-2. カリキュラム・ポリシーの明確化	満たしている
4-3. カリキュラム・ポリシーに沿って理論的教育と実務的教育の架橋に留意した体系的な教育課程の編成	満たしている
4-4. 教育研究上の目的に相応しい授業形態、学修指導などの実効性	満たしている
4-5. 学修成果の把握・評価	満たしている

【理由】

専門職大学院は、使命・目的に基づきディプロマ・ポリシーを策定し、運営会議・内部質保証委員会で検証を行い、教育の質向上を継続している。ディプロマ・ポリシーはホー

ムページ・履修要項で周知され、単位認定や修了要件を厳正に運用している。

カリキュラム・ポリシーは、運営会議・内部質保証委員会において策定・見直しを行い、ディプロマ・ポリシーで示す能力の修得を目的とした体系的な教育課程を構築している。ポリシーはホームページや履修要項、学校説明会、入学時オリエンテーション、必修科目等で周知している。

教育課程連携協議会を設置し、社会変化に即した教育改革を推進している。令和6(2024)年度には、同協議会からの要望により生成 AI に関する特別講義を実施した。カリキュラムマップにより、各科目とディプロマ・ポリシーの関連を可視化している。

単位修得の質を確保するため、各科目のシラバスに評価基準や授業外学修時間を明示し、ルーブリックを用いた厳正な成績評価を行っている。また、履修上限を専門職大学院設置基準に基づき定め、1年間35単位を上限として計画的履修を促している。

研究科・専攻・コースのディプロマ・ポリシーに基づき、体系的な学修成果を定めている。評価方法は運営会議・内部質保証委員会で策定・検証し、アセスメントプランの多面的指標で評価している。結果は共有され、授業改善や学修支援に活用されている。

基準 5. 教員

【評価】

基準 5 を満たしている。

5-1. 教育課程を遂行するための教員配置の適切性	満たしている
5-2. 教員の採用・昇任方針の明確性、運用の適切性	満たしている
5-3. 教員人事における意思決定の適切性	満たしている
5-4. 教員の教育研究活動を支援・活性化する体制の適切性	満たしている

【理由】

専門職大学院は、「文化ファッション大学院大学 教員組織の編成方針」に基づき、教育研究上の目的に即した教員組織を編成している。教育課程の運営に必要な教員を適切に配置し、専門職大学院設置基準に定める教員数を満たしている。専任教員の資格要件は「専任教員の任用に関する規程」により明確化され、関連法令を遵守して運用されている。加えて、実務家教員と研究者教員の構成バランスに配慮し、実務経験を有する教員による専門職教育の充実を図っている。

教員の採用・昇任に関する方針を明確に定め、関連規則に基づき適切に運用している。教育理念を踏まえ、教育実績、実務経験、研究業績、教育能力などを総合的に審査し、専門職教育にふさわしい人材を採用している。昇任に際しては、教育・研究・社会貢献等を多面的に評価し、公平性と透明性を確保している。これらの取り組みにより、教育理念に即した教員体制が維持され、組織的な質の向上が図られている。

教員人事における意思決定の権限と責任体制が規則に明示され、適切に行われている。

専門職大学院は、FD 研修を実施し、教育研究目的を達成するために研究費などの資源

を適切に配分するとともに、各教員の専門性や教育・研究への貢献に応じた評価を行っている。